

平成 20 年度 産業技術連携推進会議 ライフサイエンス部会

第 30 回デザイン分科会 本会議議事録

日 時：平成 20 年 7 月 7 日（月） 13:00～17:00

場 所：山形テルサ（山形市双葉町 1-2-3）

■本会議

1. 開 会（定刻開催）

2. 挨拶

分科会長（デザイン分科会長；北海道立工業試験場 及川氏）

皆さんこんにちは。北海道立試験場の及川と申します。今回ご縁がありまして、デザイン分科会長を務めさせていただいております。実は、去年の冬に、前分科会長の志甫様より電話がありまして、輪番制によると、次の分科会長は北海道・東北ブロックになります、ついでには、及川さんやってもらえませんか、とこういようなお話がありました。たった 2 年ということですが、何か新しいことを軌道にのせるとすると、とても短いかなと思います。皆さんのお力を借りながら、微力ですけれどもこのデザイン分科会の発展に貢献できればと思っております。

さて、今回の春の大会ですけれども、ライフサイエンス部会傘下として動き出してから 2 年目になります。回数で言うと、去年の春、秋、で今年は 3 回目になります。ただし、非常に歴史ある分科会ですので、実質的な回数なども上手く表現出来る方法も取ればと思っております。

先ほど、司会の武井さんの方からご紹介がありましたけれども、今回の開催地は山形ということで、開催機関であります山形県工業技術センター様におかれましては、素晴らしい会場、それから会議の準備、二日目は見学 会もあります、諸々色々なご準備でご尽力いただいております。改めてこの場をお借りしまして御礼を申し上げます。

それから、皆さんご存知のとおりこの会は、公設試デザイン部門の方が中心ですけれども、その他、国の方からも今回ご参加いただいております。主催機関であります産総研からは橋本様、それから滝口様、経済産業省の方からは横山様、製品評価技術基盤機構からは岡本様、人間生活工学研究センターからは畠中様をお呼びしております。是非この機会に色々な面で意見交換・情報交換していただければと思っております。

最後になりましたけれども、今日は私にとって皆様ほとんどの方との初顔合わせという場かなと思っております。私の今日の宿題は皆さんの顔を覚えることです。今回のご縁を機会に皆様との交流の機会を広げていきたいと思っております。今日明日この会議が皆様と準備された方々にとって実り多いものとなることを祈念して、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はご参加どうもありがとうございます。

副部会長（ライフサイエンス部会副部会長；(独)産業技術総合研究所 橋本氏）

皆様こんにちは。産業技術研究所の橋本でございます。今年、ライフサイエンス部会の副部会長を仰せつかりまして、私の力に余る思いであります。皆様にお力添えいただいてなんとか務め果たしたいと思っております。今回の開催にあたっては、まず分科会長の及川様お世話になりました。それから山形県、山形県工業技術センターの皆さん、どうもありがとうございました。部会長の小高より、ライフサイエンス部会の活動報告と方針について話をし、てきてくださいと言われておりますので、簡単にご説明いたします。（資料に沿って説明）

開催県代表（山形県商工労働観光部 ブランド戦略推進室長；渡邊氏）

（歓迎挨拶、山形県の施策説明：省略）本日はありがとうございます。

3. 議長選出

恒例により、開催県である山形県工業技術センター 武蔵毅所長が務めさせていただく。承認。

4. 議 事

1) 連絡事項

- ・ 経済産業省／製造産業局 人間生活システム政策室係長 横山 康之
「キッズデザインの推進 ～Through Kids Eyes～」
- ・ (独)製品評価技術基盤機構／人間福祉技術課 岡本 尚子
「人間特性データベース 人間特性ポータルサイトの紹介」
- ・ (社)人間生活工学研究センター／事務局長 畠中 順子
「日本人の人体寸法データベース 2004-2006」
- ・ 京都市産業技術研究所工業技術センター／竹浪 裕介
アンケートご協力のお願い

2) 提案要望事項

提案事項1：改めて秋期デザイン分科会に対する、各機関の位置づけ及び動向を踏まえた、全体的な意向を確認したい。（千葉県産業技術支援研究所 岡村氏）

提案事項2：デザイン分科会開催県になるべく負担がかからない形で、提案（展示）ができればと思います。（以前ポスター展のような話もありましたが、断ち切れになっているのでは。場所は、公的なスペースを使用して行う。）（静岡県工業技術研究所 多々良氏）

提案事項3：1) 各県試験機関におけるデザイン業務のビジョン発表

2) 独立行政法人化した機関における現状報告（愛媛県産業技術研究所 藤田氏）

（千葉県産業技術支援研究所；岡村氏）

今年の秋の研究発表会の幹事県となりました、よろしくお願いたします。秋のデザイン分科会に関しまして、皆さんがどういったお考えをお持ちなのかをざくばらんに聞きたいなと思ひまして、こういうテーマを書きました。正確なカウントは忘れましたが、春の分科会から研究発表会だけを抽出して独立開催したのが10回前後になるかと思ひます。その間関東甲信越の持ち回りで開催してきましたが、昨年度から東京都をベースにして幹事県は持ち回りということになったと思ひます。春の分科会ではかなり参加者が多くて、今回の参加者を見ると国と開催県を除いて36名余来ているんですが、去年の長野県が幹事機関となって開催された秋の分科会は国と県を除くと18名でした。発表者がそのうち7名ということで、発表する人と聞いている人と半分という形です。そういうことを皆さんはどのようにお考えなのか。発表する人は当然自分の研究発表をしに行くわけですが、聞く人が少ないのではないかということで、位置づけ的にはどのようにお考えなのかお聞きしたい。それから秋にも国・関連団体さんからもデザイン情報の発表等があるのですが、その他色々な情報収集といたしまして何か特別な要望があれば。今年はデザインのイベントの期間に開催したいと思ひていますが、そういうことも含めて何かあれば。また春と秋で別の人が来られると思ひますがその辺の動向について。それから公設デザイン機関について秋は内部の方の情報収集や交換等の内容を組んでいるのですが、外部への発表とか、先ほど産総研で中小企業の参加を支援すると言書いてあったので、やはり中小企業のためにやっているわけですからそういう人が聞かないともったいないので、新しい秋のあり方について、今までのやり方をベースにしながら、何か意見がありましたら頂戴したいなと思ひています。

(議長)

ありがとうございます。それでは意見ある方…と思ひましたが、次の提案事項と関連ありますか、静岡県の多々良さん。では併せて提案理由を説明していただいて、1番と2番の意見を聞くということにしたいと思ひます。

(静岡県工業技術研究所；多々良氏)

以前、2年ぐらい前でしたか、以前は全試展という公設試の展示会があったわけですけども、それに代わるようなものというか、なかなか活動が見えにくいということで、ポスター展のようなことをやったらどうかというのがあったと思うのですが、その後特別動きがなかったんで、ここで確認も含めて、やれるかどうか検討していただきたい。また、秋の分科会でこういったことも検討するとか、考えられるかなということで提案しました。もう1点、記載はしてないのですが、春の分科会のことについてですが、今回デジタル分散研究会は、4人しかいないということで私も急遽変更してこちらに移ったんですけども、3つの研究会も参加人数に差がありすぎるのももう少し検討していただきたいなということで、ここには記載してませんが提案させていただきます。

(議長)

ありがとうございました。それでは1番目と2番目併せて、ご意見ありましたら頂戴したいと思うのですが…

(愛媛県産業技術研究所；藤田氏)

先ほどの静岡県さんのことに便乗する形ですけども、愛媛県としてデザイン分科会にはずっと出席してないのです、実は。今回15年ぶりくらいで初めての出席なのですけれども、先ほど静岡県さんから出たような、負担にならないような形で、それぞれの県の状況等が分かる形、これが私どもからの提案事項にあるビジョン発表のような形になると思うんですけども、そういうのがあれば、より良いなということもあって、追加の要望ということです。

(議長)

これ、3番目に触れているということによろしいですか。

(愛媛県；藤田氏)

はいそうです。

(議長)

これで全部の提案がなされたような形ですが、ご意見お願いしたいと思います。会場からなければ、分科会長さんどうですか。ご意見だとか、あるいは今後の進め方だとか。

(分科会長)

はい。皆さんもだいたいお感じになっているかと思いますが、ライフサイエンス部会傘下になって今年で2年目です。公設試を取り巻く状況なども県によって変わり、なかなか参加し難い状況もあるようです。今回、前分科会長の志甫さんに確認したところ、ライフサイエンス部会傘下となった段階でのデザイン分科会における運営要項みたいなものはきちっと整理されていないようです。以前より運営に係る大まかな要領みたいなのはあったらしいのですけども、分散研究会をどう運営していくかというきちとしたルールみたいなものはどうやら整理されてないようです。ライフサイエンス部会という体制になりましたので、この機会に、分科会の大まかな考え方と骨格を整理したような運営要領の整備、それからそれに付随して、分散研究会をどう進めていったら良いかという運営方法、先ほど出ていた公設試デザイン部門の成果物の発信、こういったものも含めて、検討を開始してもらいたいというふうに思っております。まずは当面分散研究会をどうしようかということが中心になるかと思えます。現実的には、今日この場で全部決まるということは難しいと思いますので、ど

んな体制でこれを検討していったら良いのか、誰が中心になってどういう風に検討を進めていったら良いのか、いつぐらいまでにどこまで検討出来るか、こういう検討の仕方を、今日の後半の全体討議を含めて、皆さんと合意まで至れば、と思っております。

検討の中では、千葉県の岡村さんから出ている秋の分科会のあり方、当然春とも関連します、それから静岡県さんから出ている公設試デザイン部門の成果物の対外発信、更に、愛媛県さんから出ている各県のビジョンの紹介、それから分散研究会がどうあるべきか、こういうものも全部からんでくると思います。こういった議論をこの後の分散研究会の中で、もしお時間あれば、全部は無理だと思いますが、ご検討いただければと思います。私からは、希望も含めて、コメントさせていただきました。

(議長)

ありがとうございます。今のお話ですと、分散研究会が終わって、全体討議がございます。そこでまた議論したい、については分散研究会でも色々ご意見があればそこでやりとりしていただく、ということよろしいですか。

(分科会長)

そうですね。あと補足ですけれども、過去平成14年度に佐賀県さんでの春の大会の時に、川口さんが中心となって、公設試デザイン部門の研究とは何かとかですね、公設試のデザイン支援とは何かというアンケート調査をして、一旦色々全国の情報を取りまとめたかと思えます。その後、18年の鳥取県さんの時にも、デザイン振興の考え方ということでまたアンケート調査を取ったかと思えます。18年度のほうは私も確認できておらず、皆さんにまで取りまとめ結果がフィードバックされたかどうか分からないのですけれども、こういった情報はデザイン分科会にとってのある種の基盤情報ですので、定期的に整備していく必要があるのかなと思っております。

また、愛媛県さんから提案要望事項として独法化に関する現状報告が出ています。独法化に関しては、非常に皆さん関心が深いと思います。私が所属する北海道でも、22年度スタートを目処に独法化の準備に入りました。是非来年度の春あたり、うまくプログラム調整出来れば、先行して独法化を進めている機関の情報提供とか話題提供、こんなプログラムも、春の大会の中にちょっと設けても良いのかなとも考えています。こんなことも含めて、分散研究会の中で皆さまご討議していただければと思っております。

(議長)

分科会長さんからご意見ありました。ここで何かご意見ありましたらお聞きします。この後で、分散研究会のほうでご議論いただいて、その報告をもって全体会議でやりとりしよう、というのが大きな流れですので、そちらの方でご意見言っていただければ結構です。

それではここで提案・要望事項の方は一旦終了させていただいて、分散研究会に入らせていただきます。

(分科会長)

現在の分散研究会の現状を皆さんにご紹介いたしますと、研究会幹事さんについては春の大会に継続して参加できる公設試の方になっていただくというのが理想です。ご存知の通り、なかなか継続して参加出来る方が少なくなってきました。今回の大会では、UD研究会だけでなく地域デザイン振興会も、実は前回の幹事さんが参加出来ない状況にありました。結果的に、今回の山形の大会ではとりあえず、両研究会とも、参加申し込みのあった方の中から、適切な方を特定して、臨時的になっていただくということをお願いしております。

UD研究会の方は、今回参加希望者が12名ということで、奈良県工業技術センターの澤島さんをお願いしております。

それから、地域デザイン振興会の方は参加希望者25名ということで、宮崎県工業技術センターの鳥田さんをお願いしております。メーリングリストのほうで鳥田さんのほうからご案内ありましたように、地域デザイン振興研究会では、宮城の佐藤さん、神奈川県の浅井さん、大分の佐藤さん、お三方からデザイン講話ということで話題提供いただいた上で参画したメンバーとの意見交換をしましょう、というご案内が皆さんに向けて既に発信されているかと思えます。

最後に、デジタル研究会ですが、今年は東京都立産業研究センターの阿保さんに幹事を担っていただきます。去年阿保さんにはUD研究会の幹事を担っていただきました。当初、今年のデジタル研究会への参加希望者が少ないということで、阿保さんのほうから、デジタルにこだわらないので、ものづくりデザインということで皆さんこちらの方に参加されませんかという掘り起こしのメールもあったかと思えます。結果的には参加希望者が増えず、4名ということです。少ない人数ですが、デジタルデザインのメンバーにおかれましては、是非今後の研究会のあり方という話題を中心にご検討いただいて、全体討議の中でご報告いただければと思っております。

最後に私から3つの分散研究会にお願いがあります。おそらく地域デザイン振興は人数が多くて自己紹介するだけで終わってしまう可能性もあります。なかなか当初予定していた話題以外に時間を割く事はできないかもしれませんが、可能な限りで結構ですので、各分散研究会において、分散研究会の今後のあり方について、ご議論いただきたい。これが1つ目。

2つ目は、先ほど出ていた公設試デザイン部門の成果物の対外発信を、デザイン分科会においてどう考えるべきか、この辺についてご検討いただきたい。さらに余裕があれば、この2つをふまえて、分科会全体についてこういうあり方があるのではという部分に踏み込んで検討いただいても構いません。以上私からのお願いです。

3) 分散討議

デジタルデザイン研究会、ユニバーサルデザイン研究会、地域デザイン研究会に分かれて討議。

4) 全体会議

デジタルデザイン研究会幹事からの報告（(地独)東京都立産業技術研究センター；阿保氏）

デジタルデザイン研究会、こちらは過去を遡りますと、CG研究会というのが過去にございました。その当時CGが流行ったということでだんだん参加者が増えていきまして、CGとネットワークという2つの研究会に分かれたという経緯がございます。時代の要請というか、コンピュータ関係のものがツールとしてスタンダード化されたということもありまして、一番大きく参加者が増えていったのがデジタル研究会になったということが経緯でございます。ここ数年、デジタル研究会は減少気味、今回は4人の参加者ということで、研究会のあり方含め色々と話をいたしました。

分散研究会全体の棲み分けというのが不明瞭な部分もありますけども、私ども研究会の中で一つ言えることとしましては、デジタルデザイン研究会の中では、CADやRPといったものを始め、一体化した形、形を題材にしたものづくりといったことで他の研究会と棲み分けをしたいと、そういう情報交換の場として、とりあえず名称を「ものづくりデザイン研究会」としたいということで話がまとまりました。

秋のデザイン分科会のあり方ですけども、成果物の発信を負担にならない方法はないかという話でしたが、なかなか負担にならない形でこういった発信を行うというのはちょっと難しいのではないかと。そもそも、秋のあり方単独ではなく、春も含めた分科会全体で考えなければ。たとえば、今現在私たちデザイン分科会の参加者の中では、機関や組織ごとにデザイン担当者のスタンスや担当分野、研究が主体なのかサービスの主体なのかで違ってきますし、そもそも予算のあり方自体もシステムが違っているということもあります。公設試としては決して良い風が吹いてないという中で、皆さんがここに参加する旅費を事業立てするのはかなりハードルの高いものになってきていると。それに対して、得られる情報や価値が若干減じている方向に向いていないかということで、秋のあり方というよりも、やはりデザイン分科会への参加自体、2年3年未来永劫参加を保障される機関というのは少ないのではないかと。分科会での議論も継続するのが難しくなっております。

答えとしては、ポスターセッションや外部への発信ということもありますけども、年2回の開催意義や、分散研究会の棲み分け、たとえば数年前から第1希望第2希望ということで取っておりますけど、人数調整のために多少は振り分けるという話も一時ありましたし、開催県が持ち回りで受けられなくなったときどう対処していけば良いのかということも含めて、ルール作りが必要だということは再認識しました。それをどういう体制で進めていった

ら良いかと分科会長から話がありましたけども、時間的な都合もありまして、今回はそこま
でいたりませんでした。

最後に独法化につきましては、東京都立産業技術センターもそうですが、地方独立行政法
人化に平成 18 年になりまして、2 年が経ち 3 年目に入っております。聞かれたことについて
は色々といくらでもお話しますし、現状報告と言われると何を聞きたいのか分からないので、
具体的にどういった内容を教えてくれと言われてたら喋ることができます。以上がデジタルデ
ザイン研究会で検討した結果です。

(議長)

ありがとうございます。先ほどデジタルデザインの名称をどうするかというところ、もう
一度お願いできますか。

(東京都；阿保氏)

はい、「ものづくりデザイン研究会」です。

(議長)

ただいまの報告につきまして、体制等は後からお聞きしますけれども、ご意見とかありま
したらお願いいたします。では、なければ、分科会のあり方等の話題は後からということ
よろしいですか。それでは 2 番目、ユニバーサルデザイン研究会の幹事を務められました澤
島さん、お願いいたします。

ユニバーサルデザイン研究会幹事（奈良県工業技術センター；澤島氏）

ユニバーサルデザイン研究会は、12 名 8 機関 3 オブザーバーということで研究会活動をさ
せていただきました。最初に、各所の現状ということで、技術相談・指導・依頼試験・研
究開発・その他業務の比率ですね、どのくらいかかっているかということの情報交換をいた
しました。その中では特に、最近はコーディネート業務とかそういう方向の業務が増えてい
るというお話がありました。それから、各研究内容についても、時間の許す限り色々紹介し
ていただきました。あとデザイン行政としては、だいたい各府県もちょっと縮小傾向かなと
いう話がありました。

主に先ほど投げかけられました課題について話を進めてまいりました。研究会のあり方
ですけども、情報交換がメインというのが現状です。この現状を変える必要があるかどうか
という話ですけども、メンバーが流動的、各府県さんの重点課題も年々変わっていくとい
うことで、メンバーが固定するということがない。メンバーを固定するという形の研究会は
そもそも難しいのではないかと。ということになると、現状のような情報交換で仕方がない
のではという話です。

それから、研究会をもうちょっと違うくくりで考えてみても良いんじゃないかという意見もありました。たとえば、ユニバーサルデザインですけども、やはり地域デザインを考えている、あるいはデジタルな技術を使っている、そういう今の地域振興、地域デザイン、ユニバーサルデザイン、ものづくりデザインにしても、結局どれもラップしているのではないかということで、もう少し違うくくりでくくってみると、参加者が偏ることもないかもしれないし、面白いのではないかという話がありました。

研究会の進め方としましては、一つの案としまして、これは産総研さんの意見ですが、ナイトさんやHQLさんのデータの活用など、前年度にあるテーマを設定しておいて、次の年あるいは秋の分科会でそのテーマについて話し合っていこうというような、具体的なテーマを持ってやっていったらどうでしょうかという話もありました。

公設試の成果のPRということですが、これは、お祭りに併せる、要するにキッズデザインとかGマークでも良いですし、国際福祉機器展等、そういうイベントに併せて共同で出していく。それはやはり出展費の負担が都道府県一つで出すよりもみんなで負担したほうが負担は小さくなりますし、インパクトもあるのではないかということで、そういう機会があれば出していくというのは良いことだと思います。ただし、それを唐突にやるのではなく、むしろ秋の分科会とか秋でなくっても良いのですが、分科会とイベントを組み合わせるというのはどうでしょうかという意見もありました。

あと独法化の話ですけども、独法化は今回出席の8機関の中では岩手県さんがH18年に独法化されているということで、皆さん色々と興味があったようで、岩手県さんに色々とお答えいただきました。基本的には公務員型ということですけども、やはり研究に関しては外部資金に頼っていくという傾向があるそうです。他府県は大学が独法化してますが、公設試に関しては沈静化している、あるいはそういう話は出ていないということです。

その他ですけども、HQLさんやナイトさんから、公設試で色々人間工学関連、デザインに関する機械等保有しているということですけども、HQLやナイトに企業さんが相談に来られる、そこで対応できない場合もある、そこで、他府県さんがどういう機械、どういう技術を持っておられるか、そういうことを教えていただければ非常にありがたいということで、これはまた、今後メーリングリスト等でご協力願いが来ると思いますので、そのときはご協力よろしく願いいたします。以上です。

(議長)

はい、ありがとうございます。今のお話の中で、あり方については今のままでやむを得ないのではないかということ、また一方で違うくくりにしてはどうかと、でもまだ具体的な提案ではないのですね。ではこれも後で併せてということよろしいですかね。

では最後に地域デザイン振興研究会幹事の鳥田さん、お願いいたします。

地域デザイン振興研究会幹事（宮崎県工業技術センター；鳥田氏）

地域デザイン振興研究会は、かつてクラフト研究会という研究会でした。そしてその頃から言われていたことは、元気の出る研究会、そしてデザイン分科会も、元気の出るデザイン分科会というのを先輩たちから言われてきた記憶があります。これをもう一回復活して、元気の出る地域デザイン振興会というテーマで、3人そしてプラス1の方々から講話をいただきました。まず「地域デザイン振興の推移と今後」ということで、宮城県産業総合センター所長佐藤明さんからお話をいただきました。これは38年間のデザイン支援の歩みを分かりやすく歴史的な系譜とそれとデザインマインド、そこを伝えていただきました。

そして「明日をひらく地域デザイン振興－神奈川のデザイン戦略について－」ということで浅井廣一郎さんからお話をいただきました。これは神奈川県産業技術センター企画部に戦略的デザイン室を作られたというお話です。そして、その中で大事だったのが、神奈川県が、戦略的デザイン技術というものをコア技術として認めていかれたということです。

3番目に、「大分県の商品開発デザイン支援事業について」大分県産業科学技術センター産業デザイン担当の佐藤幸志郎さんからお話いただきました。これは、地域において、デザイナーと企業とそして地元のデザイナーたちも参加して、グッドデザイン商品支援事業という一つの事業を、もう10年来行われている事業ですが、その経過とデザインサポート、その成果についてご紹介いただきました。佐藤明さんもデザインセンターの所長となられましたが、大分県もセンター所長にデザイン担当の坂下さんがいます。やはり地域でデザインが昔から熱心に行われているところは、デザインの所長さんが生まれるということで、嬉しく思った次第ですが、その後に、各参加者25名プラス経済産業省の横山さんはじめ参加していただきまして、26、27、28名その人数の中で自己紹介を時間のない中でお話していただきました。そんな中で若い方、私も勤めて30年近くなりますがもしかしたら生まれてなかった若い方も入っておりますので、私がデザイン分科会の仲間に入ったときの気持ちをちょっと思い浮かべながらお話お聞きしました。

今回の研究会、テーマについてはちょっと論議する時間ありませんでした。ましてや資料を配布していただきましたが、説明時間も少なくて申し訳なかったなと思います。たまたま分科会のあり方など係わる考え方やアイデア、思いを述べていただいた方もおります。一つは、佐藤さんの講演の後に、やはり成果品、そしてお金を取ってきた事業じゃない、自分たちが熱意を持ってやったものが、今回調べてみるとやはり成果として地元から商品が生まれているということもお伝えいただきました。そして、その成果を積み重ねてみると、自分たちがやった成果がほんとは出ているんだということで、PRそしてみんなに見てもらう場が是非必要だということで、これは秋の分科会、研究発表会とも連携すると思うのですが、そういう提案をいただきました。

そして自己紹介の最後になりましたけども、山形県の羽生田さんから、山形のエクセレント事業ということで、山形のグッドデザイン商品、プロモーション販売等についてご紹介

いただきました。この中で、今回お見えになっていませんが、産業デザイン振興会、地域のデザインプロモーションには非常に力強い支援機関であったのですが、そちらを含めて経済産業局の応援もいただきながら、是非これからまた新しいパートナーとしてデザイン分科会から要請して、産デ振の方々にもこの分科会に出席いただくようにと、そういう新しい風を感じるような言葉をいただいております。地域デザイン振興研究会は、現在幹事を三重県の榎谷さんがお務めいただいておりますが、継続してやっていただければやはりありがたいと思っています。

地域デザイン振興のあり方とか私たち公設試デザイン担当職員の役割とか、これは先輩から引き続き、いつもデザイン分科会自体のテーマにあったように思いますし、また紐解いていただければ工藝ニュースとかかつて産工試のほうから出ていましたが、そういう50年も昔の時代から地域のデザイン、産業、地域活性化、そういう役割を大きく担ってきた私たちの歴史があるのじゃないかと今日あらためて思いました。以上つたないですけど、ご紹介終わります。

(議長)

ありがとうございました。では、ただいまの発言に対してご意見ありましたらお願いいたします。なければ、共通のテーマに入りたいと思います。

先ほどご提案があったのは、まずは分散研究会のあり方。これについては「ものづくりデザイン」という1つ提案がありました。地域、ユニバーサルの方は現状で良いということかなと思って聞いておりましたけど。あと対外発信についてはだいぶ両極に分かれたかなと。したいというのと、お金があるのかという問題ですね。あとは分科会のあり方。これについては、秋の開催、そして発表ということが重なってきている。これについて差し当たり、皆さんのご意見をお聞きしてということですのでよろしいですか、分科会長。

(分科会長)

ええ。いくつかがあがっていると思いますけど、全部は今日討議できないと思います。ただ、ちょっと差し迫っているというか、来年も今回のように分散研究会の幹事さんがうまく継続してもらえるかどうか、なかなか難しいと思います。佐賀の川口さん、ずっとやってきていただいた経緯があるのですが、来年も参加できる旅費等の確保が保証できなくて厳しいというコメントも事前にいただいております。ですから今後とも、分散研究会の幹事役の方が毎回変わる可能性が出てくる。じゃ、どうやって決めたら良いかとか、分散研究会は春の本会議のメインプログラムですので、この辺のルールとかどうしていくかというのをまず皆さんでご検討いただいて、ここで決まらなるとすれば今後、どういったメンバーが中心になって、検討するのかということですね。どういった検討の進め方をするのか、その辺も踏み込んで

何かご意見いただければと。まず幹事さんそれぞれにご意見いただきたいと思うんですが、どうでしょうか。

(東京都；阿保氏)

とりあえず、デジタルデザイン研究会は、来年も参加させていただく方向で、幹事は継続してさせていただきたいと思います。ですけれども複数名体制という形をとっていくのは必要じゃないかなと。予定としてオーケーですけども日程的に折り合いがつかないような場合にやはり欠席せざるを得ないこともありますので、そういった場合にその都度その都度代理を立てるのも、やはり私自身相談したいこともございますので、そういう意味では2名体制でやっていくのが一番好ましいのかなと思ってはおりますが、とりあえず来年の開催については承知しました。

(奈良県；澤島氏)

来年のことはよく言えませんが、UD研究会には一応出れる状態であれば出ささせていただきたいと思います。ただ、今日の分散研究会の中でも話があったのですが、メンバー自体が流動的なので、幹事自体も流動的で良いのじゃないかという意見もありました。ずっと一名の方とか、仮に都合が悪い場合とか、そういうフィックスする必要があるのかなのか検討していただければ。とりあえず、来年は出れると思います、としか言いようがありません。

(宮崎県；鳥田氏)

榎谷さんのメッセージはいただいておりませんが、昔から正副二名体制だったと思いますし、必ず出れるということはないというのはかつてからの流れであったと思います。ですから榎谷さんは今期で2年目なんですね。だいたい幹事は正も副も2年で交代するような流れがあったと思うんですけども、それを踏まえてまた次の若い人たちにお願いするとか。それは幹事の方で連携して来年度以降の方をお願いとか、そういうことを含めてやっていったほうが良いのかなとは思っています。今日は職場から水野さんが来ていただいておりませんが、私も幹事の方へ今日のご連絡をして意思を確認してみたいと思います。

(分科会長)

他に皆さまから何かありますか。幹事さんからのご意見なんかを踏まえてこういうルールでやったらどうでしょうかとか。無理にガチガチのルールにする必要はないと思います。基本は継続していただける方がいれば、その方にやっていただくと。ただ、昨今の事情の中でなかなか継続参加が難しくなってきた時に、例えばその方が次の方を責任持って打診して決めるとか、いろんなルールがあって良いと思います。

先ほど冒頭でお話しましたとおり、分散研究会の目的が何で、どんなルールで幹事さんが決まって、どんなふう運営していくかという、実は明文化されたきちとしたものがないようですね。ライフサイエンス部会傘下になったということもあるので、あらためて、今までやってきたルールを、もう一回確認の意味も兼ねて要領という文章にまとめてみる必要があると思います。この場で決めるのは難しいとは思いますが、だいたい皆さんのご意向がどの辺にあるのか受け止めたいと思っています。幹事さんを決めるというルールについて、もし、アイデアがあればお願いいたします。

(議長)

幹事さんの任期は2年？

(分科会長)

私も前分科会長から詳細を引き継いでないのですが、鳥田さん、どうですか。過去どういうルールで運営されていたか、ちょっとご紹介していただけますか。

(宮崎県；鳥田氏)

地域デザイン振興研究会については、羽生田さんの場合も、2年でやりました。前々から2年、もしくは3年の時もあったと思います。申し合わせで副と正が交代したりとか。たぶんデジタルとかCAD・CAMはそうされたいと思います。それと先ほど付け加えるの忘れましたが、代表幹事の方が出られないときは、参加者がだいたい決まった時点で、やはり開催県とか他の方に代理を依頼されていました。それを今回及川分科会長がされたと。それで支障はなかったように思いますけど。

(分科会長)

阿保さんの方はどんな感じでこれまで。

(東京都；阿保氏)

前はそうのように聞いてはおるのですが、副が設置された記憶がないことと、2年でちゃんと引き継げたことが、前任者含めてなかったような。そういう意味で明文化した形で要綱つくりましょうというのには賛成です。

(議長)

その他ご意見ありますか。ではスケジュール的には、分科会長さんどのようにお考えになっていますか。年度内、あるいは2年、どういうスパンで要綱なり考えているか…そうすると今年のメンバーなりでどうするか議論ができるのかなと思ったんですが。

(分科会長)

今お話お聞きすると、すでに地域デザインのほうではあるルールによってやってこられた経過があって、基本的には2年、正副両方の担当幹事がいて、両方がだめなときはその方が責任を持って参加できる方どなたかに打診して調整する。こんなようなルールを他の研究会についても適用しましょう、これを分散研究会のルールにしましょう、幹事を決めるルールですね。こういったルールであれば次の春の大会までに、たとえば今日幹事をやっていただいたお三方、それから今回出られなかった二名の方、こういった方を中心にちょっとたたき台を作っていて、それらを私と一緒に揉みながら皆さんにメーリングリスト等でお諮りをする。次回の春までにそのようなスケジュールでご検討していただければ良いかなと、というのが私の今の感想です。それぐらいが可能なんじゃないかなというふうに今は受け止めております。

(議長)

それでは分科会長さんを中心にして、幹事さん方でメール等のやりとりをもってある程度たたき台を作りましょうと。それを来年の春に皆さんにお諮りしたいということによろしいですか。

(分科会長)

ええ、逆に皆さんから、それじゃ遅いのでは、早くに進めて欲しいということがあるかもしれませんね。来年の春に決まるということは、来年の春にもし何かドタバタしたときにまたそこで調整しなければいけないので、その前に決まっていたほうが、ルール適用できるわけです。来春に適用できる時期までに決めておけば良いかなと思いますが、たとえばそれをどこで決めるかなんですね。今日みたいに大勢が集まっていれば、ほぼ合意が得られればOKということになるのですが、例えばメーリングリストを使って合意を得る方法は可能でしょうかね。

(宮崎県；鳥田氏)

デザイン分科会がライフサイエンス部会傘下になって、3年とか、制約というのはあったのでしょうか。地方部会とかの場合、研究会は3年とかそういうのがあったと思うんですが、その辺は。

(分科会長)

初回の申請の場合ですとどの分科会も3年ということで申請していると思います。おそらく、3年経過後、更新する申請書をまた出して、ライフサイエンス部会の中に継続して位置

づけられるのか、その辺の流れについては、私も詳細を捉えておりません。今後のそういう手続きがどういうローテーションで繰り返されていくか、産総研の方、その辺のイメージを、情報お持ちであればご紹介いただきたいと思いますけども。

(産総研；瀧口氏)

実は、昨年4月を持ちまして組織改変を行いました。技術部会、地域部会、地域産技連というくくりで産技連というのはスタートしたんですけども、今現在のところ地域部会と技術部会に限って言えば、移行が形式的に行われたということで106の組織で成り立っているんですね。この分科会ということではなくて、他の分科会なり研究会なり、運営が形骸化しているというような組織が実際あります。そういったところを視野に、3年を目処に期間を区切ってもう一度見直すということにしてはどうかということ動いているわけです。現に今、統廃合に向けて若干変化しつつあるという組織もあります。

(議長)

逆に言うと、デザイン分科会自身が自らいろんなことを考えていかないと、形式的にはただつなぐだろうということでは困るわけですね。

(産総研；瀧口氏)

そういうことになろうかと思えます。昨年4月のスタートというのが各組織の意義というのをあまり考えずにスタートしたようなところも少しありまして、少し問題視されているということもあります。

(千葉県；岡村氏)

幹事のお話も非常に大事だと思いますが、大事なのはこの分科会、分散討議の中で参加者が有意義なことを得られたかが非常に大事だと思います。今まで皆さんから色々な資料いただいて持って帰るのですが、幹事さんが情報の一元化というか、このファイルを毎回貯めると膨大な量になるとは思いますが、簡単にあったことを整理して記録して次の幹事に引き継ぐということが今までなされてきたんでしょうか。

(千葉県；岡村氏)

そういうことではなくて、毎回参加者が違ったりするので、どこか一元化するところがないと。少ないから良いとか多いから良いとかいうことではなく、少ないなりに有意義な討議ができると思うので。何かそういうちょっとした管理をしても良いのかなという気がします。それがあれば、幹事が変わっても引き継いでいけるかなとちょっと思いました。あと、全体会議で皆さんが討議するということは不可能だと思いますので、分散会議の中でデザイン

分科会のあり方とか、そういうことを皆さんで自由に話せる時間が。秋は難しいです。春は懇親会等でも話が出るかとは思いますが、実際正式な討議というのは全体会議の中では難しいと思いますので、分散会議である討議内容を投げかけてそこから全体的にひろっていくという作業をもうちょっとシステムに組み入れたらどうかと思います。だいたい今まで参加すると、自己紹介と有効な研究なさってるとか事例を持っている方の発表ということで非常に有意義なんですけども、各人が話し合う機会、一機関としての率直な意見を話せる場を持って良いのかなというふうに思います。人数が多いと議論も出来ないですから、分散研究会が一番適当だろうというふうに私は考えます。

(議長)

その他、ご意見どうでしょうか。

(宮崎県；鳥田氏)

幹事がこの場で発表するだけで、それは開催県にまかされたことであつたと思うんです。開催県で熱心だったところは資料も、今日も資料で何が出たかというのは一覧で出ていますし、非常に時間が少ないのも昔から言われたことでした。佐賀県の場合は、現地視察をなくして、開催県の裁量で地方公設試どうするという議論だけの場をもつたのですね、そういう工夫をされればこれからも一つのテーマでありますけれども良いのかなと思いますし、資料をまとめて皆さんに情報を発信するとかいうことにしてしまうと開催県が大変になってしまうんじゃないかなという気はします。たしかにあれば最高ですけども。それとメーリングリストをお世話してくださっているところに議事録がいつも入っていくようになっていますので、そういうところから見ていただければと。

(千葉県；岡村氏)

そういうことではなくてですね、今まではデジタルとか福祉とかあつた時に私も参加したのですが、必ずリーダーシップを取って研究分野で熱心な方が中心幹事になっていたと思うんです。それで分散研究会をコーディネートなさっていたと思います。ですから皆さんこの分科会が終われば自分のところに帰っていくわけですから、研究会で自分の糧になるようなことを常にその場で残るようなものにしていかないと。ただ集まった、こういうことがありましたということでは、それは開催県の記録としてはたしかに残りますけれども、研究会自体の機能が全くそこで分断されて、ブツ切れになっているのではないかと思ったので。資料を完璧に管理しろとかそういうことではないのですが、簡単な議事とかメモとか、データを少しまとめておいても良いのかなと思いました。

(議長)

一分科会としての歴史とか到達点、情報の共有とかそういうことですね。それが皆さん各人になっていて、どこに聞けば今までの歴史なりやりとりが見えるのだろうかということなんですかね。そういったものを踏まえてもっと自由に議論できる時間があればなということですね。その辺もかなりあり方に関わってくるような気がします。

それでは先ほど分科会長さんからお話あったわけですけども、今のお話、あと先ほど分散研究会の名称変更の問題もありました。そういったものひっくるめて、先ほどご提案があったような分科会長さん中心にして、今の幹事の方たちでまとめていただく。そして私からですが、来年の春ではちょっと心配だというお話もございました。それで来年の春には決定できるくらいのメーリングリストを使ったやり取りといったものを皆さんに事前にお送りしていただいて、意見は意見で集約して、全て一致するとは分かりませんが、後で判断していただいて春には提案する。そしてその提案する要綱に基づいて、幹事のあり方、テーマを前もって周知しておいて皆さん意見を持ったやり取りができるようにすると、そういった運用なんかも併せてご提案できれば有難い。そう思って聞いていたのですが、その辺いかがでしょうか。

(分科会長)

今、議長からご提案あったように、来春の開催までになるべく皆さんと豊富な議論をメーリングリスト等を使って行い、最終的なご承認を春の大会でいただく。そこから漏れる細かなルールもあると思いますが、それらを全体討議等々で深めていただくという形が取れると良いかなと思います。色んなご意見がありました。過去の経緯を見ますと、おそらく分散研究会というのはかなり幹事依存型というか幹事にゆだねるということを中心に、その研究会の中でどんな情報共有するかとか、どんなテーマでやるかとか、事前準備どうするかとかかなり幹事依存型で運営してきたと思います。ですから、それを全分散研究会に共通したルールを決めるとなると、また細かな話になりますので、ある部分は幹事さんに依存しつつ、共通してルール化しておくべき部分は最低限これぐらいだろうとか、その辺はある程度運営要領ということで検討できるかなと思います。私と今回幹事やっていたお三方、プラス今回事情で参加できなかったお二方もおりますので、この五名あたりを中心に検討を進めて、ある程度たたき台ができたときに皆さんにお示ししたり、あとは秋の分科会でどのくらい検討が進んでいるかわからないのですが、秋のときにその辺の状況報告もできたら良いかなというふうに思います。と私の方は思っていますが、今日のお三方の幹事さん、それはちょっと難しいよということであればまたそれはそれで踏まえますけども、いかがでしょうか。よろしいですか。私も頻繁に東京に出る機会もありますので、皆さんでどこか顔合わせる機会があれば集まって意見交換もできるかもしれません。なるべく工夫して検討進められるようにしたいと思います。大丈夫ですよというサインがちらほら見えましたので、皆さんもしご異論なければそういった方向で進めたいと思います。

(議長)

それではそのような方向で進めると。秋のときにはもしかしたら中間報告できるかもしれない。いずれにしても春までには皆さんのところに原案があってご検討できる時間もとつと。それについて特に異論ございませんか。ではこの件については今後検討を進めるということにさせていただきたいと思います。

それでは次の次第に参ります。次期開催県および次年度開催県についてでございます。次期開催県が千葉県さん、次年度開催県が愛知県さんというふうにお聞きしてございますがそれでよろしいでしょうか。それでは両県のお二方からこの場でご挨拶いただければ。

(千葉県；岡村氏)

秋の分科会、関東甲信越で輪番制により千葉県が幹事をすることになりました。例年秋は、展示会等皆さんが参加しやすいよう便宜を図るということで分科会長さんと打ち合わせまして、福祉機器の展示会もよく使われているようですが、それは9月ということで春とつまってしまうんですね。10月30日から11月3日まで100%Designというデザインのイベントが神宮外苑で行われています。かなり大きなイベントで、展示がインテリア関係が多いのですが、学生の展示や神宮外苑の広いスペースを使って色々な楽しいイベントやっていますので、デザインのイベントとしては大きなものだと思います。この会期中10月31日(金)を一応予定しています。時間は午後ということで。開催場所を考えたんですが、昨年度は産総研さんの臨海副都心センター大変素晴らしい会場お借りできることになって、今年も石川県の志甫さんともそちらの方でと言っていたんですが、イベント会場と近いところはないかと探していましたら、日本産業デザイン振興会のリエゾンセンターという東京ミッドタウンにあるのですが、こちらの会場をお借りできないかということで交渉を進めています。もしかして産総研さんをお願いするかもしれませんが、今のところイベント会場に近いところを考えています。担当者と話しましたところ、昨年度のレジュメを見せたのですが、これは大変興味深いということで、これは内部の人しか見れないんですかと聞かれまして、具体的にどうなるかはわかりませんが、今までの分科会の発表会と少し違った視点で発表できるかもしれません。その辺はこの場ではっきりしたこと申し上げられませんが、振興会さんからこの発表会を一度フィルターを通して見てもらって、何が興味深いのか、何が有益なのか、あるいは外部の人が見れるチャンスがうまれるのか、そういうこともしながら秋の分科会を作りたいと思います。決まりましたらできるだけ発表の募集を早めに出したいと思いますが、できるだけ多くの方が参加しやすい、発表しやすい、見やすいような形式が一番良いと思います。なかなか発表できることがないとか、時間長く話すのが嫌だとか、そういうことがあれば色々な配慮をしますので、是非ご参加いただけるようお願いいたします。

(愛知県；寺井氏)

私はこの分科会の方に出たことがないと思いますが、来年開催県だということで、この会の雰囲気を確認しに来たんですけれども、なかなか結構大掛かりなものなので、ちょっと気合を入れて担当させてもらわないと立ち行かないなと思ったところです。今の段階では何も決まっておきませんので、また分科会長さんと相談させていただいて進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

(議長)

ありがとうございます。それではその他になりますけれども、何かございますか。なければ分科会長さんから一言、ありますか。

(分科会長)

皆さん、本日は長時間にわたって全体会議へのご参加、それから分散研究会の参加、どうもありがとうございます。色んな状況変化の中で、デザイン分科会のあり方についても色々課題があがってきております。一つ一つとても大事な課題だと思いますので、この場での検討というのはなかなか限界があります。先ほど皆さんからご承認いただいたように、中心になるメンバーがいくつかの検討事項を進めていきますので、メーリングリスト等で発信が出される可能性があります。是非積極的なご意見ご発信をいただけるようにと思っておりますので、その点についてもどうぞよろしくお願いいたします。今日は皆さんありがとうございました。

(議長)

それでは、以上を持ちましてデザイン分科会本会議を終了させていただきます。本当に長時間どうもありがとう ございました。 以上